2020年度　ＮＩＥ実践報告書

薩摩川内市立平成中学校
国語科教諭　宮内　弘毅

1　はじめに

ＮＩＥ推進校としての初年度を迎え、私は本校での担当者となったが、ＮＩＥの経験は皆無である。しかし、生徒に主体的・対話的で深い学びを求める以上、私自身が深く学ばなければならないと「教員免許状更新でのＮＩＥ講座」「薩摩川内元気塾での南日本新聞社講師依頼」「ＮＩＥ実践授業」「ＮＩＥ全国大会（リモート視聴）及び新聞原稿執筆」「若い目への投稿」等、様々な挑戦をさせていただいた。

世界各国がコロナ渦で苦慮している昨今、私たち日本人も日本に限らず、世界に目を向けなければならない時代である。日本に住んでいながらも、世界各国の情報を容易に入手できるグローバルな時代を迎えている今、幸いにも多くの外国の方々とも一緒に生活している。だからこそ、様々な人々の多様な考え方やものの見方を知り、さらに根拠を明確にして自分の考えを述べられる人材育成が急務となっていると考えられる。また、新学習指導要領改訂により、様々な力の育成が謳われ、今後の多様な変化に富む生活の中で、自分を見失わず、確かな一歩を歩むことができる人間を育んでいくことが、私たち教職員に求められている使命ではないだろうか。そんなことを痛感させられた１年となった。

2　活動設定の理由

新学習指導要領が改訂されたことにより、「主体的・対話的で深い学び」の充実がより求められていく時代を迎えている。つまり、「アクティブ・ラーニング」の実現と充実の時代が訪れているということである。そこで、今後重要度を増すであろうことが予想されているのがＮＩＥである。日頃から新聞を読む生徒ほど学力が高く、読解力も高いことが証明されている。ところが、鹿児島県は全国でも購買量、購読量がともに最下位というデータがある。

日本人は物事を多面的・多角的に捉えることを苦手としている傾向にある。そこで新聞をまるごと読むことで中学生が世の中の様々な出来事を知り、他者と意見を交流させることで新たな発見や他者理解ができるようになってくると考えられる。知識や理解が点から線、線から面へと広がっていく学びの楽しさを、新聞教育を通じて実感させたい。そういう意味では授業にリアリティーとタイムリーな切実感が加わる新聞の活用は授業における読解力向上に向けての有効的な手段であると思われる。学習と社会をつなぎ、自ら課題を設定するために、教科書から飛び出す授業を展開したいと考えたことから、活動理由の設定とした。

3　身に付けさせたい資質・能力

その日の新聞を細かく読み、気になった記事を選び、選んだ記事について根拠を明確にして説明する。さらに記事の重要度をグループ内で話し合わせ、台紙に貼っていく「まわしよみ新聞」の活動を通して、生徒自身が社会に関心を持ったり、読解力や表現力を身につけたりすることができると思われる。まさに「課題の発見や課題解決に向けた主体的・対話的で深い学び」につながる活動である。新聞を読むことで「知識・技能」を習得し、根拠を明確にして説明することで「思考力・判断力・表現力等」を育成し、記事の重要度をグループ内で検討することで学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養につながると考えられる。また、新聞記事を切り抜いて貼る活動の中で、様々な資質・能力を身につけられる活動であると言える。

他者の意見に素直に耳を傾け、自分なりの意見や考えを持ち、明確な根拠を持って自己表現していくことが、いずれ参画することになる社会への希望となるはずである。本授業を通して社会を生き抜くための「活用型学力」の育成を図りたい。

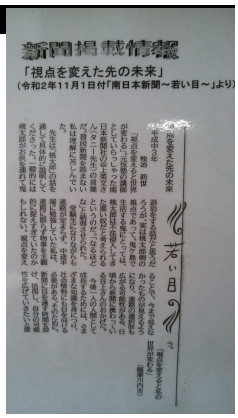
4　実践事例Ｉ（薩摩川内元気塾　１０月実施）

南日本新聞社読者局読者センター谷上英文氏をお招きし、元気塾を開催した。夢を追い続けることの素晴らしさに感動したり、学ぶことや働くことの意義について深く考えたりすることを通して、自分の将来を見つめ、夢や希望を膨らませる機会としてほしいと考えた。

今回の元気塾の内容は新聞や新聞記事の特徴を知り、学ぶことである。新聞普及率が低い鹿児島県では、新聞が身近な存在ではなくなりつつあり、新聞の良さを感じてほしいと考えた。

体育館での全校生徒参加

さらに、普段から新聞に携わっている方の話を通じて興味をもってもらうことである。「ニュースはネットで十分」と考える生徒に、「新聞はニュースだけでなく、コラムや社説などの情報も載っていること」等、新聞の面白さや楽しさを味わってほしいと考えた。



感想が「若い目」に掲載

5　実践事例Ⅱ（１１月実施）

新聞レポート学習を取り入れた。まずは、新聞を読む時間を確保し、見出しや気になった記事を読むように指示した。そうして少しずつ興味や関心を高めるようにした。次に、気になる写真やイラスト、見出しを３つ選抜し、記事を詳細に読んだ上でトップ記事を考えさせた。さらに、３つの記事をレポート用紙に添付し、選んだ理由を書かせる。理由には事実に基づく正確な分析や知識に裏付けされた思考があると考えたからだ。

レポート完成後はグループで共有させ、複数のレポートを併読することで比較でき、多面的なものの見方を養った。新聞普及率が全国最下位の鹿児島県にあって、このような活動を生徒が自宅で話し、そのような家庭が増えていくことによって新聞普及率が高まり、ひいては現在求められている新学習指導要領で涵養することが望まれている「読解力」向上へとつながっていく機会の１つとして、とても有意義な学習活動となった。

【第１学年　レポート共有】

【第２学年　記事抜粋の熟考】

【第３学年　新聞レポート】

6　実践事例Ⅲ（ＮＩＥ公開授業　第２学年対象　１２月実施）

（１）　単元名　　「 対話で世界を広げる　～まわしよみ新聞を通して～ 」

（２）　単元の指導目標

ア　選んだ記事と他者の選んだ記事を、図や絵、記号などを用いて整理することができる。

【 知識・技能　（２）情報の扱いに関する事項　○ 情報の整理　イ 】

イ　記事を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結びつけ、根拠や考えの筋道を明確にした上で、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

【 思考力・判断力・表現力等　Ｃ読むこと（１）オ 】

ウ　対話を重視した「まわしよみ新聞」の製作を行うことで、自分の考えを確かめたり修正したりして、ものの見方や考え方を深めようとする。

【 主体的に学習に取り組む態度 】

（３）　評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力、人間性等
記事を、図や絵、記号などを用いて整理することができる。 （２）情報の扱いに関する事項 ○　情報の整理　イ	記事から理解したことや考えたことを知識や経験と結びつけ、根拠や考えの筋道を明確にした上で、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。　Ｃ読むこと　（１）オ	対話を重視した「まわしよみ新聞」の製作を行うことで、自分の考えを確かめたり修正したりして、見方や考え方を深めようとする。 【主体的に学習に取り組む態度】

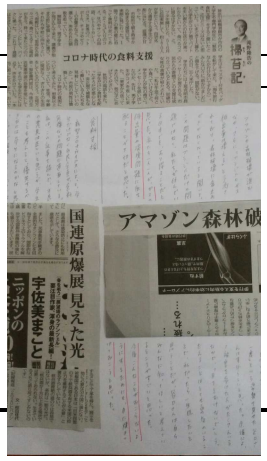
（４）　生徒の実態

ア　ＮＲＴ結果より（※　省略）

イ　事前アンケートより（２３名対象）

あなたの自宅では新聞を購読していますか	はい		いいえ	
	４名		１９名	
あなたは新聞を読んでいますか	毎日	たまに読む	あまり読まない	まったく読まない
	０名	８名	１１名	４名
新聞を読むとき、どの記事を読みますか（複数回答可）	一面	政治	経済	スポーツ
	１８名	６名	４名	１１名
	コラム・社説	県内の記事	４コマ漫画	テレビ欄
	２名	７名	１２名	８名
気になったニュース	菅新首相誕生　コロナ拡大　緊急事態宣言　五輪延期　Go To 首里城火災　甲子園縮小開催　マラドーナ死去　日置市殺人事件 米国大統領選　無観客開催　今世紀最大級台風　志村けん死亡 岡村隆史結婚　鬼滅の刃興行収入　三浦春馬死亡			

（５）　単元の指導計画（全３時間）



時	学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
1	1　新聞に目を通す。 2　レポートを完成する。 3　交流する。	 【レポートの交流】	
2 本時	1　谷上氏の説明を聞く。 2　注目記事を切り取る。 3　グループでトップ記事を決める。 4　「まわしよみ新聞」の製作を行う。	・トップ記事を選んだ根拠を明確にさせる。	【知識・技能】 （トップ記事） 【思考・判断・表現】 （トップ記事）
3	1　「まわしよみ新聞」を仕上げる。 2　「まわしよみ新聞」を紹介する。 3　「まわしよみ新聞」を振り返る。	・　どんなことを意識したかを明確に述べさせる。 ・　他のグループの発表を聞き、今後の自分のものの見方や考え方につなげさせる。	【主体的に学習に取り組む態度】 （まわしよみ新聞）

（６）　身につけさせたい資質・能力

「まわしよみ新聞」の活動は「課題の発見や課題解決に向けた主体的・対話的で深い学び」につながる活動である。また、社会に関心を持つことで、読解力や表現力、批判的思考力を身につけたりすることができる。新聞を読むことで「知識・技能」を習得し、根拠を明確にして説明することで「思考力・判断力・表現力等」を育成したい。また、記事の重要度をグループ内で検討することで学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養につながる。

（７）　本時の指導計画（第２時）

（ア）　本時の目標

「まわしよみ新聞」を通して、ものの見方や考え方を広げることができる。

【 思考力・判断力・表現力等　Ｃ読むこと（１） 】

（イ）　本授業のポイント

・　トップ記事の選択では明確な根拠が重要であることを意識させる。
・　「まわしよみ新聞」の製作を通して、自分とは違うものの見方や考え方に気づかせる。

（ウ）　本時の学習目標

分かりやすい「まわしよみ新聞」に挑戦しよう。

（エ）　本時の実際　（２／３）

過程	学習活動	指導上の留意点	評価
つかむ・見通す	1　前時の学習を想起する。 2　本時の学習目標を確認する。 【 本時の学習目標 】 「 まわしよみ新聞」に挑戦しよう 3　谷上氏の「まわしよみ新聞」についての説明を聴く。	・　記事の選抜には根拠が必要だったことを振り返らせる。 【ゲストティーチャーとして説明してくださる谷上氏】	【主体的に学習に取り組む態度】 （観察）
調べる深める	4　「まわしよみ新聞」の製作。 ①　新聞を読む。 ②　「気になる」記事を切り取る。 ③　グループで１人ずつ記事をプレゼンする。 ④　「トップ記事」を決定する。 ⑤　「新聞名と日付け、編集後記」を記載する。	 【トップ記事の吟味・検証】	【主体的に学習に取り組む態度】 （観察） 【思考・判断・表現】（トップ記事）

振り返り	5　「まわしよみ新聞」を紹介する。 6　谷上さんの感想を聞く。 7　自己評価カードを記入する。 8　次時の学習内容について確認する。	 【まわしよみ新聞の紹介】	【主体的に学習に取り組む態度】（発表） 【思考・判断・表現】（発表）

（８）　本時の評価
分かりやすい「まわしよみ新聞」に挑戦できたか。

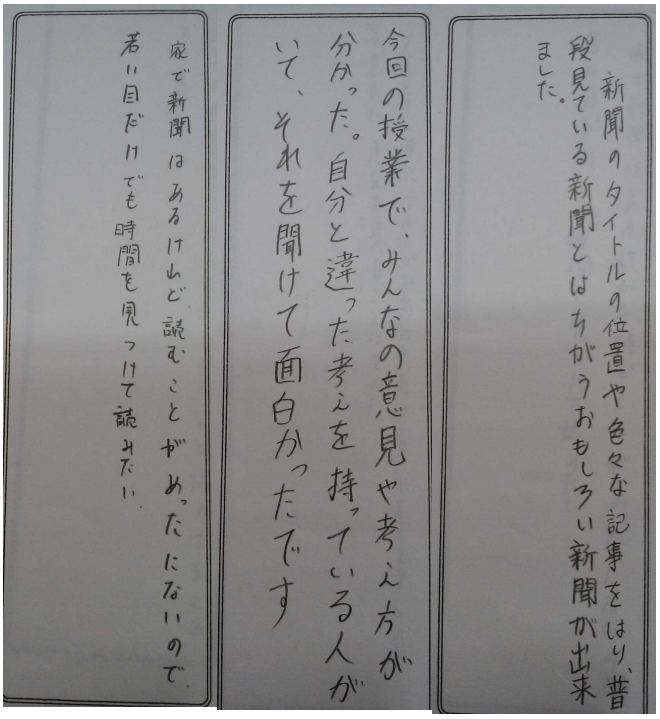
7　成果と課題（○成果　△課題）

○　ＮＩＥに苦労すると気をもんでいたが、生徒は普段目にしない新聞を授業中に手にしたことで、じっくりと読めることに満足感を得ることができていた。

○　南日本新聞社読者局読者センター谷上氏の御協力により、元気塾で全生徒対象とした「よむのび教室」を実施できたことが何よりである。また、感想を書いた生徒が自ら「若い目」に投稿してほしいと願いでたことから、意欲の高まりを感じた。

○　本校生徒が若い目に掲載されたことで、「生徒Ａ」のように思う意識が芽生えた。また、「まわしよみ新聞」を経験したことで、「生徒Ｂ」「生徒Ｃ」のように、批判的思考力を養いながら学習の楽しさや面白さを感じる生徒が増加した。

△　鹿児島県内に限らず、本校でも「新聞購買量」が低い。ＮＩＥを通して生徒は新聞の魅力を感じられたであろうが、新聞の重要性を各家庭へと拡大する難題は依然として残っている。



生徒Ａ　　生徒Ｂ　　生徒Ｃ

△　ＮＩＥに取り組むことは新学習指導要領に則って素晴らしい活動ではあるものの、国語科だけの時数確保では困難を極めるため、教育課程での改善を図る必要がある。

8　終わりに

ＮＩＥ推進校初年度を迎えた本校担当者として、今年度改めて「教育に新聞を取り入れていく」ことの重要性を痛感した。教科書だけで授業を展開していくのではなく、教育活動全体にＮＩＥを取り入れることで批判的思考力を養い、現代を生きる若者に、たとえ複雑なことであっても「ああそうだったのか」「そういうことだったのか」という納得感や満足感、達成感を感じさせられる授業や教育活動を展開していくべきであろう。そのためにも、ＮＩＥ推進校としての担当者である私以外にもＮＩＥの重要性を感じてもらい、次年度はより一層全職員が一体となってＮＩＥに取り組む雰囲気づくりを重視し、学校全体としてさらなる飛躍を遂げたい。